

ごあいさつ

滋賀県家畜保健衛生所

所長 谷 浩

新年度の初めにあたり、ごあいさつ申し上げます。畜産農家の皆様をはじめとする関係者の皆様には、日頃より家畜衛生の推進に格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

本年度は「平成」から「令和」の時代の変わり目の年となりました。先の天皇陛下は「平成」は戦争のない平和な時代で良かったとおっしゃられました。我々畜産関係者にとっては、平成はそれまでにはなかった伝染病への対応が必要になった厳しい時代でした。平成 11 年度に口蹄疫、平成 13 年度に牛海綿状脳症、平成 15 年度に高病原性鳥インフルエンザが何十年ぶりあるいは初めて国内で発生し、牛のトレーサビリティ、一定の月齢以上の死亡牛全頭検査、飼養衛生管理基準等の農家の皆さんにも、私どもにも悩ましい現行の制度が整備される契機となりました。さらに、平成 30 年 9 月には国内で 26 年ぶりに豚コレラが岐阜県で発生し、その後平成 31 年 2 月に愛知県にも拡大しました。愛知県での発生に関連して本県、長野県、大阪府でも発生があり、本県においては初めての特定家畜伝染病の発生に県を挙げての防疫対応となりました。皆様のご協力とご支援にあらためて深謝いたします。

思い起こせば昨年度のこの通信衛星の「ごあいさつ」で、訪日外国人の増加とそ

の外国人が定番の観光地だけでなく思いがけない場所にもやってくることに家畜防疫上の懸念を申し上げました。しかし、当時は、豚コレラの発生を想定していたわけではなく、念頭にあったのは口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザ、アフリカ豚コレラでした。近隣諸国では、これらの伝染病の発生が続いており日本でも引き続き警戒が必要です。飼養衛生管理基準に則った伝染病の侵入防止対策を継続していただくことをお願い申し上げます。

最後になりましたが、今年度の家畜保健衛生所は以下の課題について重点的に取り組んでまいります。

- ・危機管理体制の充実強化
- ・飼養衛生管理基準の指導
- ・診断技術の向上と精度確保
- ・キャトル・ステーション事業の推進
- ・牛白血病や牛ウイルス性下痢・粘膜病、PRRS 等の清浄化や侵入防止のための家畜衛生対策の推進
- ・サルモネラのモニタリングの実施や農場 HACCP の推進による畜産物の安全性向上
- ・乳用牛の飼養管理技術・繁殖技術の指導による生産性向上

昨年度に引き続き課題ですが、皆様のお役に立てるよう職員一同努めてまいりますのでよろしくお願い申し上げます。